

# 国際バカロレア研究会報告書 (1次とりまとめ)

令和6年5月

# 目次

1	研究会の概要	
(1)	目的	1
(2)	研究会委員	1
2	研究会の活動経過	2
3	研究内容報告	
(1)	IBについて	3
(2)	PYP (Primary Years Programme)について	7
(3)	MYP (Middle Years Programme)について	21
(4)	DP (Diploma Programme)について	29
(5)	IB教育と外国語教育について	34
(6)	まとめ (IB教育導入の効果 (メリット) と課題について)	35
4	IB教育導入の可能性について	36
5	今後の取組について	37
	参考資料 (IB認定校 (国公立) 一覧 (令和6年3月31現在))	38
	参考資料 (IBを活用した入試が可能な大学 (令和5年1月現在))	39

# 1 研究会の概要

## (1) 目的

グローバル化や技術革新が急速に進展する社会の中で、本市の子どもたちが未来社会を生き抜くための資質・能力を育成するとともに、教育の質及び学習意欲の向上を図るため、国際バカロレア（以下「IB」という）研究会を設置し、導入可能性について研究を進める。

## (2) 研究会委員（R6.3.31まで）

委員長	教育長 大和田博行
副委員長	教育委員会事務局 鎌田由光、こども未来部長 末永実
委員	教育総務課 教育総務課長 大石雄彦
	学校教育課 学校教育課長 矢内信男、参事兼指導主事 村上潤一、指導主事 増田康弘
	教育企画担当課長 熊坂真利、指導主事 中畑真
こども育成課	こども育成課長 志賀俊一、育成指導担当課長 鈴木甲子
	おだか認定こども園長 新田奈々恵
復興企画部	イノベ政策課長 宝玉光之、参事 山岡浩一郎 全14名

アドバイザー 国際バカロレア機構地域ビジネス開発及び高大連携担当  
アソシエイト・マネージャー（日本） 黒川礼子

事務局 教育総務課総務係長 加藤安枢子、学校教育課教育企画係長 坂下拓也、学校教育課教育企画係 松嶋一憲

## 2 研究会の活動経過

11/22 記者発表・研究会発足

12/27 第1回国際バカロレア教育研究会

1/14  
~ 16 ぐんま国際アカデミー視察  
視察参加者：門馬市長、大和田教育長、  
学校教育課 坂下拓也、中畑真  
こども育成課 育成指導担当課長 鈴木甲子  
おだか認定こども園長 新田奈々恵  
復興企画部長 横田美明、参事 山岡浩一郎

2/5 第2回国際バカロレア教育研究会

2/13  
~ 16 高知県立高知国際中学校、高等学校  
高知県香美市立大宮小学校、香北中学校 視察  
視察参加者：大和田教育長  
学校教育課 増田康弘、坂下拓也、中畑真  
復興企画部長 横田美明、参事 山岡浩一郎

2/27 第3回国際バカロレア教育研究会

3/25 第4回国際バカロレア教育研究会

### (1) IBについて

#### IBとは

IBは、スイスのジュネーブに本部を置く国際バカロレア機構（以下「IBO」という。）が提供する課題論文、批判的思考の探求等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、グローバル化に対応した素養・能力を育成する教育プログラム。

国際バカロレア機構（IBO）の提供の下、世界160以上の国・地域の5,800校以上で実施されている。

日本国内では、IB認定校等が241校（2024年3月31日現在。プログラム単位での認定校数）

#### IBの理念

IBの理念は、一貫した国際教育観点から「国際バカロレアの使命」や「国際バカロレアの学習者像」として示されている。「国際バカロレアの使命」として、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探求心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としている。

また、「国際バカロレアの学習者像」として、10の人物像が示され、「国際バカロレアの使命」を具体化し、国際的な視野を持つということはどういうことかについて明確に表している

#### IBの教育プログラム

IB教育のプログラムとして以下4つのプログラムがある。

○PYP(Primary Years Programme)

主に幼稚園・小学校（3～12歳）を対象としたプログラム

○MYP(Middle Years Programme)

主に中学校（11～16歳）を対象としたプログラム

○DP(Diploma Programme)

主に高校（16～19歳）を対象とした2年間のプログラム

○CP(Career related Programme)

16～19歳を対象としたキャリア教育・職業教育に関連したプログラム

日本での導入校なし

本研究会では、主としてPYP、MYP、DPについて研究を行った。

## IB認定校が価値を置く人間性（人物像）

### 【IBの10の学習者像（全プログラムにおける共通のテーマ）】

<p><b>探究する人</b></p> <p>私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。</p>	<p><b>心を開く人</b></p> <p>私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。</p>
<p><b>知識のある人</b></p> <p>私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い知識を探究します。地域社会やグローバル社会の重要な課題や考えに取り組みます。</p>	<p><b>思いやりのある人</b></p> <p>私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。</p>
<p><b>考える人</b></p> <p>私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。</p>	<p><b>挑戦する人</b></p> <p>私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に対して、機知に富んだ方法で快活に取り組みます。</p>
<p><b>コミュニケーションができる人</b></p> <p>私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のもの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。</p>	<p><b>バランスのとれた人</b></p> <p>私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。</p>
<p><b>信念をもつ人</b></p> <p>私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。</p>	<p><b>振り返りができる人</b></p> <p>私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。</p>



グローバル人材が持つ素養・能力

#### IBと学習指導要領

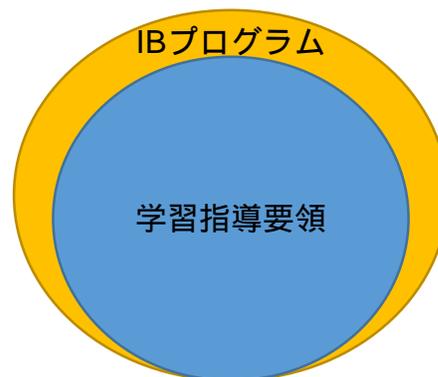
学校教育法第1条に規定する教育施設（いわゆる一般的な日本の学校。以下「一条校」という。）は、学習指導要領に基づいてカリキュラムを作成している。

学習指導要領では、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となれることを目指しており、そのために「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」の3つの柱を掲げ、探求学習や主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の視点を踏まえて教育活動を行うこととしている。

一方、IBにおいても、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探求心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的に、グローバル社会で必要な素養・能力として10の学習者像を掲げており、両者の理念・考え方には親和性がある。

一条校でIB教育を行うには、学習指導要領とIBの理念に基づく教育プログラムの両方の要件を満たすよう、学習の内容や方法を設定して取組む。学習指導要領に基づく教育活動にプラスして行うものであり、IBに取り組んでいるからといって、日本の学習指導要領に基づく教育を受けられないわけではない。

ただし、一条校ではカリキュラムが学習指導要領の内容を確実に網羅しているか、確認した上で進める必要がある。



### IBの認定プロセス

- 国際バカロレア機構（以下「IBO」という。）へ、スクール・インフォメーション・フォームを提出。
- IB教育に関わる情報収集、導入を目指すかどうかの研究を行う。
- IBO主催のワークショップ（Head of School）を受講する。
- 候補校申請を行う。  
候補校になるとIBOからコンサルティングが配置される。
- カリキュラムを作り試験授業を開始する。  
PYP・MYPは連続した2学年（1～2年生、年中～年長児等）の試験的な導入が必要。  
2学年分の試験が終わった後、認定の申請ができる。
- 導入校内でのワークショップの実施ほか、IBO主催のワークショップに計画的に参加する。
- IBOのコンサルテーション訪問を受ける。
- 認定校申請を行う。  
PYP・MYPは連続した2学年のカリキュラムの全て、及びそれ以外の学年は3つずつカリキュラムを作って提出する。
- IBOの確認訪問を受ける。
- 認定校となる。
- 評価訪問を受ける。（認定初回は4年後、以降は5年毎）

### (2) PYP (Primary Years Programme) について

#### PYPの目的・概要

- ・ PYPは、国際バカロレア機構 (IBO) が提供する初等教育プログラムであり、3歳から12歳までの児童を対象としている。精神と身体の両方の発達を重視するプログラム。
- ・ PYP は生涯にわたる旅のスタートにあたる。思いやりがあり、文化を理解できる 3歳から12歳の子どもたちを、自らの学習に積極的に参加できるように育てていくことを目的としている。
- ・ PYPは、使用言語の指定はない。
- ・ PYPでは、学びの集大成として「Exhibition(発表会)」を行う。香美市立大宮小学校では、6年生時に1年間かけて自らテーマを設定し、探求して資料を作り発表を行っている。

#### PYPのカリキュラムの概要

PYPは以下の6つの教科横断的な学びのテーマを、学習指導要領が定める各教科と組み合わせてカリキュラムを編成する。

## PYPの6つの学びのテーマ

私たちは誰なのか (Who we are)

私たちはどのように自分を表現するか  
(How we express ourselves)

私たちはどのような場所と時代にいるのか  
(Where we are in place and time)

この地球を共有するということ  
(Sharing the planet)

私たちは自分たちをどう組織しているか  
(How we organize ourselves)

世界はどのような仕組みになっているか  
(How the world works)

## 6つの教科

言語(国語)

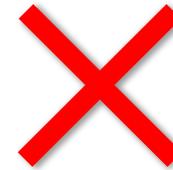
社会

算数

芸術(音楽・図工)

理科

体育  
(身体・人格・  
社会性の発達)



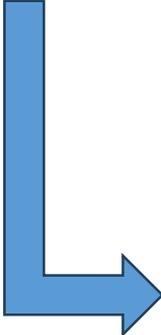
PYP学びのテーマ	内容
<p>私たちは誰なのか (Who we are)</p>	<p>自分自身の性質、信念と価値観、個人的・身体的・精神的・社会的そしてスピリチュアルな健康、家族・友人・コミュニティー・そして文化圏を含めた人間関係、権利と責任、人間であるということはどういうことなのか、ということに関する『探究』。</p>
<p>私たちはどのように自分を表現するか (How we express ourselves)</p>	<p>私たちはどうやって考え・感情・自然・文化・信念・価値観を発見し表現するのか、私たちはどうやって自分の創造性について考え、それを発展させ、楽しむのか、また、私たちの美の鑑賞についての『探究』。</p>
<p>私たちはどのような場所と時代にいるのか (Where we are in place and time)</p>	<p>私たちはどのような場所と時代にいるのか 場所と時間への適応、個人の歴史、家と旅、人類による発見・探検・移住、地球規模そして地域レベルの観点から見た個人と文明の関係性と相互的な関連性に関する『探究』。</p>
<p>この地球を共有すること (Sharing the planet)</p>	<p>この地球を共有すること 限られた資源を他の人々そして他の生物とどのように分け合うかということに取り組むうえでの、権利と責任について、コミュニティーとは何か、そしてコミュニティー内およびコミュニティー間の関係性、機会均等の実現について、平和そして紛争解決についての『探究』。</p>
<p>私たちは自分たちをどう組織しているか (How we organize ourselves)</p>	<p>私たちは自分たちをどう組織しているのか 人間が作ったシステムとコミュニティーの相互的な関連性、組織の構造と機能、社会的意思決定、経済活動とそれが人間と環境に与える影響に関する『探究』。</p>
<p>世界はどのような仕組みになっているか (How the world works)</p>	<p>世界はどのような仕組みになっているのか 自然界とその法則について、自然界（物理学のおよび生物学的な）と人間社会のかかわり、科学の原理について理解したことを人間がどのように利用しているか、科学的・技術的な発展が社会と環境に与える影響に関する『探究』。</p>



『探究』学習がキーワード

#### PYPカリキュラムの具体的な編成

**探究プログラム (POI) 作成** (POI : Programme Of Inquiry) 年間指導計画のようなもの  
教科の枠を超えた6つのテーマ (地球規模で重要な課題をPOIで探求し学習する。)  
幼稚園の場合は、6つのテーマのうち、4つ選択して作成する。



#### 探究単元 (UOI) UOI : Unit Of Inquiry

教科の枠をこえたPOIを構成する各単元を作成

【1Unitの構成】

○セントラルアイデア

それぞれの単元で教科の枠をこえたテーマの中心的な考え・普遍的で汎用的な見方や考え方・概念にあたるもの

○領域の必須項目 (探究内容)

セントラルアイデアを踏まえて探求する内容の必須項目

○キーコンセプト

8つの概念 特徴・機能・変化・原因・関連・責任・視点・振り返り

(1つの教科にとどまらず、どの教科でも活用できる物の見方や考え方)

#### 教科の枠をこえた

IBの6つの学びのテーマ × 各学年の6つの探究単元 = 36のプログラムを構成

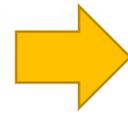
幼稚園・保育園の場合は、IBの6つの学びのテーマのうち4つを選択してプログラムを構成する。

2023 Programme of Inquiry

学年		①	②	③	④	⑤	⑥
1	セントラルアイデア	私たちの生活は人々のはたらきによって支えられている	自然界には法則がたくさんある	生き物は互いにつながっている	公共施設は人々の繋がりを強化する	見方が変われば魅力が広がる	私たちはたくさんの愛でかまわれている
	領域の必須項目	組織の構造と機能	自然界とその法則について	異なる生物種が互いに支え合っていること、生態系が互いに支え合っていること、環境が生物に与える影響について	場所と時間への適応	私たちはどうやって考え・感情・自然・文化・信念・価値観を見出し表現するのか	自分自身の性質、家族・友人・コミュニティ、そして文化圏を育んだ人間関係
	Key Concepts キーコンセプト	①学校の役割と働く人の探究 (機能) ②学校と家の違いの探究 (特徴)	①観察の視点と方法の探究 (特徴) ②植物の成長にともなう変化の探究 (変化) ③植物のさまざまな姿の探究 (機能)	①生き物の相互関係の探究 (関連) ②生き物のからだの仕組みの探究 (特徴) ③生き物を大切にするために私たちにできることの探究 (責任)	①公共施設の役割とそこで働く人の探究 (機能) ②公共施設と家の違いの探究 (責任)	①遊びの多様性の探究 (視点) ②創造的な遊びの探究 (変化)	①自分自身の成長の探究 (変化) ②自身の成長の背景の探究 (原因)
Lines of Inquiry							
2	セントラルアイデア	すべてのシンボルにはメッセージがこめられている	私たちは自然の恵みと脅威の中で生きている	人間の生活は科学の力とともに発展してきた	それぞれの町は時間的空間と場所的空間でできている	思いを表現する方法はたくさんある	個性の融合がコミュニティを活性化させる
	領域の必須項目	人間の作ったシステムとコミュニティの相互的な関連性	自然の恵みと脅威の探究 (特徴)	科学の原理について理解したことを人間がどのように利用しているか	場所と時間への適応	私たちはどうやって考え・感情・自然・文化・信念・価値観を見出し表現するのか	自分自身の性質、信念と価値観
	Key Concepts キーコンセプト	①サインとシンボルの持つ意味の探究 (機能) ②シンボル化された10の学習者像の探究 (関連) ③シンボルを大切にすることの探究 (責任)	①自然の恵みと脅威の探究 (特徴) ②体系、実証する自然の恵みと脅威の探究 (視点) ③自然を生かした生活の探究 (関連)	①科学の力の特性と働き方の探究 (機能) ②科学の力と私たちのくらしの関わり方の探究 (関連) ③科学の力の利用の探究 (変化)	①地図表現の探究 (機能) ②地域と自分との関わり方の探究 (関連) ③自分たちの町「香北」の探究 (特徴)	①ノンバーバルな表現の方法の探究 (特徴) ②ノンバーバルな表現と受け取り方の探究 (原因、視点)	①自分と他者の違いの探究 (視点) ②人々の相互関係の探究 (関連) ③互いの尊重の探究 (責任)
Lines of Inquiry							
3	セントラルアイデア	もの見方の獲得が、深い理解につながる	一人ひとりの地域への貢献が私たちのコミュニティをつくりあげる	人々の生活は自然現象に適応し、変化してきた	今は過去で創られ、未来は今が創る	自由な発想が豊かな創造力につながる	消費者の選択と地球環境は関係する
	領域の必須項目	自分自身の性質、信念と価値観	人間の作ったシステムとコミュニティの相互的な関連性	自然界 (物理学的および生物学的な) と人間社会のかかわり	地球環境、そして地域レベルの観点から見た個人と文明の持続性と相互的な関連性	私たちの美の鑑賞について	自分自身の性質、信念と価値観
	Key Concepts キーコンセプト	①キーコンセプトを通じた学びの探究 (特徴) ②消防署の役割と働く人々の探究 (機能) ③自分たちの学びの探究 (視点)	①地域で仕事をしている人の探究 (特徴) ②自分たちの生活に与えている影響の探究 (関連) ③地域の子どもの役割の探究 (責任)	①太陽・月・星の現象の探究 (変化) ②身の回りの事象の原因の探究 (原因) ③私たちの生活とのかかわりの探究 (関連)	①昔と今の生活の移り変わりの探究 (変化) ②時代を変化させた人々の探究 (原因) ③未来を創る自分たちにできることの探究 (責任)	①表現の技の探究 (特徴) ②思いの具現化の探究 (変化) ③作者の思いの探究 (視点)	①ごみの循環と行方の探究 (機能) ②ごみとは何かの探究 (視点) ③地球環境を守るために私たちにできることの探究 (責任)
Lines of Inquiry							
4	セントラルアイデア	水は限りある資源である	地形と気候は文化に影響する	産業の融合は新たな価値を創造する	食文化の形成は化学的変化と密接に関係している	制約と創造は芸術の源である	幸せな未来は心と体の健康から始まる
	領域の必須項目	異なる生物種が互いに支え合っていること、生態系が互いに支え合っていること、環境が生物に与える影響について	地球環境、そして地域レベルの観点から見た個人と文明の持続性と相互的な関連性	人間の作ったシステムとコミュニティの相互的な関連性	科学の原理について理解したことを人間がどのように利用しているか	私たちはどうやって自分の創造性について考え、それを発展させ、楽しむのか	個人的・身体的・精神的・社会的、そしてデジタルな健康
	Key Concepts キーコンセプト	①水と私たちの関係の探究 (関連) ②限りある資源である水の循環の探究 (機能) ③限りある資源である水の影響性の探究 (責任)	①世界から見た日本の探究 (視点) ②暮らしと気候・風土のかかわりの探究 (関連) ③衣食住から見る地域の暮らしの探究 (特徴)	①日本の産業の探究 (特徴) ②産業の掛け算の探究 (変化) ③郷土を思う私たちの生活の探究 (責任)	①科学的法則の探究 (機能) ②生活の中の科学的法則の探究 (原因、関連)	①制約のもつ価値の探究 (機能) ②詩・短歌・俳句の創作の探究 (特徴) ③作品の味わい方の探究 (視点)	①人の体と病気の因果関係の探究 (原因) ②健康な人の体の働き方の探究 (機能) ③よりよい暮らしの探究 (変化)
Lines of Inquiry							
5	セントラルアイデア	情報収集や分析は、我々の生活をより確かなものにする	自由は権利の相互的な尊重の上に成立する	情報は意図的に編集されている	人間の選択は環境に影響を与える	責任ある選択と行動がより良い未来を創造する	歴史は常に未来へ問いかける
	領域の必須項目	自然界 (物理学的および生物学的な) と人間社会のかかわり	権利と責任	私たちはどうやって自分の創造性について考え、それを発展させ、楽しむのか	機会均等の実現について	組織の構造と機能、社会的意思決定	地球環境、そして地域レベルの観点から見た個人と文明の持続性と相互的な関連性
	Key Concepts キーコンセプト	①情報収集と分析、予測の探究 (特徴) ②情報収集、分析、予測の方法と科学技術の進展の探究 (変化) ③予測が私たちの生活に及ぼす影響の探究 (関連)	①法と義務と権利の探究 (機能) ②人類が獲得してきた権利の探究 (原因) ③真の自由の探究 (責任)	①情報のもつ側面の探究 (視点) ②編集者の意図の探究 (原因) ③情報発信者のもつ責任の探究 (責任)	①世界の道徳問題の背景の探究 (原因) ②それぞれの立場から見る道徳問題の探究 (視点) ③未来を守る私たちの責任の探究 (責任)	①私たちの生活と税金の関係の探究 (関連) ②国の政治の仕組みの探究 (機能) ③私たちがもつ一票の重みの探究 (責任)	①戦争の背景の探究 (原因) ②互いの国の立場から見た戦争の探究 (視点) ③歴史からの教訓の探究 (責任)
Lines of Inquiry							
6	セントラルアイデア	一人ひとりが地球人としての役割をもっている	文化的背景は、自分たちの信念や価値観、行動に影響を与える	世界の創造は人間の移動と関係する	科学技術の進展は善悪の二面をもつ	経済は人の心理で動く	想像と創造の融合が感動を生む
	領域の必須項目	コミュニティ内およびコミュニティ間関係の構築、平和そして紛争解決	人間であることはどうということなのか	人類による発見・探検・移住	科学的・技術的な発見が社会と環境に関する探究	経済活動とそれによる人間と環境	私たちはどうやって自分の創造性について考え、それを発展させ、楽しむのか
	Key Concepts キーコンセプト	Exhibition 平和の追求	①文化の起源の探究 (特徴) ②自国と他国の文化の相違点の探究 (視点) ③文化的背景が我々の信念、価値観、行動へ与える影響の探究 (関連)	①様々な国の成立の探究 (特徴) ②人類の移住の背景の探究 (原因) ③人類が目指すべき未来の探究 (責任)	①科学技術の進展による生活の変化の探究 (変化) ②科学技術の進展とその背景の探究 (視点) ③進歩する科学技術の扱い方の探究 (責任)	①お金の起源の探究 (原因) ②お金の人の心の繋がりの探究 (関連) ③お金の概念の変遷の探究 (変化)	①人の心を動かす作品の探究 (視点) ②表現の技の探究 (機能) ③思いの具現化の探究 (原因)
Lines of Inquiry							

Who we are  
How the world works  
Sharing the planet

How we organize ourselves  
Where we are in place and time  
How we express ourselves



PYP教育プラットフォームの維持  
導 校がそれぞれ独自に作成



取組む時数を創出

### 授業時数の創出

学習指導要領で決まっている各単元の学習内容を網羅しながら、P01に基づく探求学習のカリキュラムを行うため、詳細なカリキュラムマネジメントが必要となる。

#### 《具体的な手法》

- ・生活科（1～2年生）、総合学習（3～6年生）の時数を活用。
- ・各教科の単元の時数のうち、教科横断的に探究して学べるものを抽出し、探求単元のカリキュラムとして再構築。
- ・授業時数を増やす。



#### 香美市立大宮小学校のケース

- ・生活科（1～2年生）、総合学習（3～6年生）から75時間/年を確保
- ・各教科の時数から重複している時数を75時間/年削減。（算数を除く）
- ・合計150時間を『Unit』学習としてP01のカリキュラム実施時数を確保

#### 東京学芸大学附属大泉小学校のケース

大宮小学校と同様の方法により、各学年200時間以上の時数を確保

### 3 研究内容報告

## 《参考：標準授業時数とIB(PYP)に取り組む場合の授業時数の比較（東京学芸大附属大泉小学校のケース）》

### ○小学校標準授業時数

	各教科の授業時数										特別の教科である道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語					
1年	306		136		102	68	68		102		34		34	850	
2年	315		175		105	70	70		105		35		35	910	
3年	245	70	175	90		60	60		105		35	35	70	35	980
4年	245	90	175	105		60	60		105		35	35	70	35	1015
5年	175	100	175	105		50	50	60	90	70	35		70	35	1015
6年	175	105	175	105		50	50	55	90	70	35		70	35	1015
計	1461	365	1011	405	207	358	358	115	597	140	209	70	280	209	5785



### ○東京学芸大学附属大泉小学校 授業時数(R5)》

（東京学芸大学附属大泉小学校 2023年（令和5）年度 教育課程特例校の取組について から抜粋）

	各教科の授業時数										特別の教科である道徳	外国語活動	総合的な学習の時	特別活動	新設教科	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語						
第1学年	238 (-68)		131 (-5)		0 (-102)	64 (-4)	65 (-3)		97 (-5)		20 (-14)	34 (+34)		34	201 (+201)	884 (+34)
第2学年	245 (-70)		165 (-10)		0 (-105)	66 (-4)	65 (-5)		100 (-5)		20 (-15)	35 (+35)		35	214 (+214)	945 (+35)
第3学年	175 (-70)	55 (-15)	165 (-10)	75 (-15)		56 (-4)	55 (-5)		100 (-5)		25 (-10)	35 (-70)	0	35	204 (+204)	980 (0)
第4学年	175 (-70)	65 (-25)	165 (-10)	70 (-35)		56 (-4)	55 (-5)		100 (-5)		25 (-10)	35 (-70)	0	35	234 (+234)	1015 (0)
第5学年	105 (-70)	75 (-25)	165 (-10)	70 (-35)		46 (-4)	45 (-5)	58 (-2)	85 (-5)	70	25 (-10)		0 (-70)	35	236 (+236)	1015 (0)
第6学年	105 (-70)	75 (-30)	165 (-10)	70 (-35)		46 (-4)	45 (-5)	53 (-2)	85 (-5)	70	25 (-10)		0 (-70)	35	241 (+241)	1015 (0)
計	1043 (-418)	270 (-95)	956 (-55)	285 (-120)	0 (-207)	334 (-24)	330 (-28)	111 (-4)	567 (-30)	140	140 (+69)	139 (+69)	0 (-280)	209	1330 (+1330)	5854 (+69)

IBプログラム  
(探究単位)  
実施時数

各教科や総合学習の授業時数をIBプログラム（探究単位）に取り組む授業時数に組入れて時数を確保。  
1・2年生が標準授業時数より年間で34・35時間(週1時間)多いが、3年生以上は標準授業時数のとおり。

## 指導計画（指導者の役割）

PYPでは、基本的な知識とスキルの習得、概念的理解の発達、ポジティブな姿勢の提示、責任を持った行動をとれることのすべてのバランスが保たれていることを目指している。このバランスを達成するため、指導計画において5つの基本要素が重要視されている。

指導計画の基本要素		
知識	児童に学んで欲しいことは何か	児童のこれまでの経験と理解から、重要性が高く児童自身との関連性の高い内容
概念	児童に何を理解して欲しいのか	教科との関連性があり、かつその範囲を超越してできるもの 一貫性のある深い理解を得るために児童が探究を重ねなければならない説得のある思想
スキル	児童に何ができるようにになって欲しいのか	世界において成功するために習得しておくべき、特定の教科に関する教科の枠をこえた性質の能力
姿勢	児童に何を感じ、何を重んじ、何を示して欲しいのか	学習、環境、基本的な価値観、信念、思いの表れである性質
行動	児童にどのように行動して欲しいのか	責任のある行動 責任のあるふるまいを通したより深い学習の証明、基本要素の実践結果として表れるもの

（IBO資料「PYPの作り方」から抜粋）

図 IN01

探究における教師の役割

探究を設計するとともに、自分の指導の実践と児童の学習プロセスを常に探究することで、自分の能力開発の原動力とする。	仕掛けやツールを使って、思考とメタ認知(思考についての思考)をサポートする。	体験型の学習を実践し、子どもの手、目、耳が無限の発見の可能性を秘めていることを認識する。	スキヤフォールディング(足場づくり)を行って、スキル向上のための機会を構築する。	魅力的で柔軟性のある学習空間をつくって、独立性と協働を促す。	学習者が疑問をもち、調べ、理論を構築して修正し、リサーチや学習の振り返りをするための時間を設ける。
児童を能力のある「探究する人」として尊重する。	探究のプロセスに対してオープンな姿勢を保ち、概念的理解を使用して持続的な探究の基本とする。	探究する教師		答えのない質問や問題を提示して、学習を広げる。	既存の知識を活用して、新しい学習の出発点とする。
有意義な学習活動を通して好奇心を刺激し、概念的な探究を何度も繰り返す。	現実世界の文脈と実際の経験を用いて、学習の活性化を図る。			さまざまなストラテジーを使い、柔軟にグループ分けを変更して、学習を一人ひとりの児童に合わせて調整する。	協働的な学習の重要性を理解し、個人とグループの両方からの貢献を大切にす。
クラス全体での学習体験の時間を用いて、有意義な指導、協働、振り返りを行う。	児童が教科内や教科間において熟考しつながらを見つけられるようサポートする。	教材、見学、学習活動を、探究の刺激材料として検討する。	さまざまな文脈に転移することのできる習慣や質問、ストラテジー、システムをつくる。	学習をモニタリングし記録して、全体にわたって有意義なフィードバックを提供する。	確立した成功の規準に照らして学習成果を測定する。



教師も国際バカロレアの理念等を深く理解すること。  
 教師も探究者であることが求められる。  
 (教師はファシリテーターの役割)



日々の校内研修(大呂小は週1回)及び  
 計画的な国際ハカロレノ機構主催の  
 ワークショップへの参加が必要

#### PYPの評価について

国際バカロレア教育に関わる評価は、世界中で認定校と候補校に対し、世界共通のカリキュラムの作成・評価方法など、バラつきがないようにしたうえで、認定資格を与えている。



一条校の国際バカロレア教育認定校では、

『国際バカロレア機構で定められた評価』 + 『学習指導要領での評価』 の2本立てで評価する。

## 《学習指導要領における評価と国際バカロレア教育の評価の考え方》

### 学習指導要領における評価の考え方

参考:(小学校学習指導要領解説(総則編) 第3章第3節の2)

・各教科等の目標を資質・能力の3つの柱で整理するという  
ことを踏まえ、目標に準拠した評価を推進するために「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点により観点別評価を行う。

・資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動を評価の対象とし、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。

・教師による評価とともに、児童による学習活動としての相互評価や自己評価などは学習意欲の向上にもつながることから重視する必要がある。

### 国際バカロレア教育の評価の原則

(参考:「玉川学園 渡瀬 恵一 IBにおける学習評価について」引用  
(出典:「一貫した国際教育に向けて」IBO P.20)

- ・評価は計画と指導、学習と一体化したものであること。
- ・評価システムと教科の実践が、児童生徒と保護者に明確にされていること。
- ・総括的評価と形成的評価のバランスがとれていること。
- ・児童生徒間で評価し合う活動、および自己評価の機会があること。
- ・児童生徒が自分自身の学習を振り返る機会が設けられていること。
- ・新たな学習を始める前に、児童生徒の現在の知識や経験が評価されていること。
- ・今後の学習の土台となるようなフィードバックがなされていること。
- ・保護者への報告が有意義なものであること。
- ・評価データは、指導と学習および児童生徒個人のニーズに関する情報提供のために分析されること。
- ・評価によりカリキュラムの効果が測られること。

## 【PYPの評価方法（香美市立大宮小学校の評価ポリシーから）】

評価は以下の3段階で評価を行う。

段階	目的	主な内容
①診断的評価	学習の効果をより高めるために、児童生徒の事前の状態をチェックすることを目的とする	児童がこれから始まる学びに向けて、どのようなリソースをもっているかを把握することでその後の学びの時間を効果的に進めることができる。
②形成的評価	指導過程において、児童生徒の理解の状況を踏まえ、以後の指導に生かすことを目的とする。	学びのそれぞれの段階で行うことが望ましく、児童の学びの状況を把握し、次の段階へ繋がるように評価をフィードバックすることが重要。 度々評価を行うことで、児童は自らの学びを確かめ、最終段階での学びに向けて自己の学習を調整することができる。
③総括的評価	一定の指導過程終了後に全体的な成果を把握することを目的とする	児童がそれぞれの学習の成果として自身が学んだことを表現する機会となり、学びの一面的な部分ではなく、単元のテーマやセントラルアイディアなどにかかわる多面的・多角的で深い理解を把握することができる。

### <評価手順>

- ア 診断的評価の実施、児童にどのような力があるかを把握。
- イ 学習の途中で行う形成的評価、学習の最終段階で行う総括的評価に関して、 評価課題と評価規準を予め児童に提示した上で学習をスタート。
- ウ 形成的評価については、その都度児童にフィードバックを行い、次の学習フェーズへスムーズに移行できるようにする。
- エ 学習の過程の様々な場面で自己評価、相互評価を取り入れ、 児童自身が学びを振り返り進捗状況を確認する。
- オ 総括課題については、 児童が作成後に自己評価を行い、その後教師と面談を行い、児童が改善する時間を確保する。
- カ 児童から最終的に提出された課題について評価基準をもとに、複数の教師が個別に評価する。
- キ 個別に評価した課題をつき合わず作業を行い、最終評価を確定する。

### <評価の報告>

- ・ 通知表は県の様式に沿って、学期ごとに作成する。
- ・ 国語、算数、社会、理科、生活科、音楽、図工、体育、外国語科については、国の定める学習指導要領の観点別に評価を3段階で記載する。
- ・ 外国語活動、道徳科については児童の学びの変容などを総合所見として記載する。
- ・ 探究の単元については、IBの学習者像の特性にしたがって、 児童の発達に関して所見を記載する。
- ・ 所見には、テーマやセントラルアイデアに対する理解、スキルの発達なども含める。
- ・ 指導要録は学習指導要領の観点別に市の様式に沿って作成する。開示請求がない限り、公開はしない。
- ・ 3者面談を年間2回実施。児童主導の面談とし、自らの理解を保護者に対して示すようにしている。
- ・ 面談では事例記録や児童のパフォーマンス素材、到達度把握テストなどをもとに担任が児童の理解の現状や今後の伸びしろ、 保護者からのサポートの在り方などを伝えている。

#### その他PYPに係る留意事項（香美市立大宮小学校の視察から）

○PYPに限らず、IBに取り組むには、IBの理念を理解している校長、及びIBの基準と原則に沿ったカリキュラムの計画、開発、評価のリード等を行うIBコーディネータ を置く必要がある。

IBコーディネータ の業務量が多いため、IBコーディネータ には授業を持たせないなどの配慮が必要。

香美市立大宮小学校では、毎日1時間IBコーディネータ の仕事ができる時間を確保している。

○IBの導入は教員の指導力向上にもつながる。

児童には、各探求の単元に入る際に、この単元で「何を学ぶのか」「どのようなスキルを身に付けるのか」「どのように評価されるのか」等を説明し、理解させた上で授業を行っている。

○コミュニティ・スクールにより、地域を巻き込んで取り組むことで、ふるさと教育も含めて高い教育効果が期待できる。（教員の配置に意見を述べることもできる）

○地域や保護者の方の理解醸成は、授業を見てもらうのが一番効果がある。

○香美市立大宮小のケースでは、IBを避けて市内他校に入学するといったことはない。

教員研修やミーティングの時間が多く必要になること、IBプログラムを踏まえたカリキュラムの作成、実施後の評価など、教員の業務負担の増加が懸念される。

### ( 3 ) MYP ( Middle Years Programme) について

#### MYPの目的・概要

- ・ MYPは、国際バカロレア機構 ( IBO ) が提供する中等教育プログラムであり、11歳から16歳までの児童生徒を対象としている。国際バカロレア教育の最終段階であるDP ( Diploma Programme ) のための基礎学習として位置づけられている。
- ・ 「生徒が自分の可能性を広げ、好きな勉強を探究し、身のたけにあったリスクを負うことにも挑戦し、確固とした自分だけのアイデンティティ意識と向き合い、それを育む機会を提供」するプログラム。  
( IBO 「MYP: 原則から実践へ」2014)
- ・ MYPは、使用言語の指定はない。

## MYPのカリキュラムの概要

MYPでは以下の8つの教科の学習を設定している。

MYPの教科	学習指導要領の教科
言語と文学	国語
個人と社会	社会
数学	数学
言語の習得	英語
理科	理科
アート	美術・音楽
デザイン	技術・家庭
保健体育	保健体育

#### 【MYPカリキュラムの特徴（グローバルな文脈）】

MYPでは、PYPで学ぶ6つの教科横断的なテーマを発展させ、「グローバルな文脈」に基づいてカリキュラムを編成して取り組む。

「文脈」：社会的、歴史的、文化的な背景

PYP	MYP	内容
私たちは誰なのか (Who we are)	アイデンティティと関係性 (Identities and relationships)	私は誰なのか？私たちは誰なのか？ 生徒は、アイデンティティ、信念と価値観、個人的・身体的・知的・社会的・精神的健康、家族や友達、コミュニティー、文化などの人間関係、人間であることが何を意味するかを検証。
私たちはどのような場所と時代にいるのか (Where we are in place and time)	空間的・時間的位置づけ (Orientation in space and time)	「どこ」「いつ」の意味は何か？ 生徒は、個人の歴史、ふるさとと旅、人類の転機、発見、人類の探査と移住、個人的・地域的・グローバルな観点から見た個人と市民権の関係と相互の関係性を検証。
私たちはどのように自分を表現するか (How we express ourselves)	個人的表現と文化的表現 (Personal and cultural expression)	創造的な表現の本質と目的は何か？ 生徒は、考えや感情、性質、文化、信条、価値観を発見し、表現する方法、自分の創造性を振り返り、広げ、楽しむ方法、美的認識を検証。
世界はどのような仕組みになっているか (works)	科学技術の革新 (Scientific and technical innovation)	自分たちが住む世界をどのように理解するのか？ 生徒は、自然世界とその法則、人々と自然世界との相互作用、人間は科学的原則の理解をどのように用いるか、科学的・技術的進歩がコミュニティーと環境に及ぼす影響、環境が人間の行動に与える影響、人間は自分のニーズに合わせて環境をどのように選ぶかについて検証。
私たちは自分たちをどう組織しているか (ourselves)	グローバル化と持続可能性 (Globalization and sustainability)	あらゆることはどのようにつながっているのか？ 生徒は、人間がつくったシステムとコミュニティーとの相互関連性、地域の過程とグローバルな過程との関係性、地域における経験がどのようにグローバルに関わっているのか、世界の相互関連性によってもたらされる機会と葛藤、人類と環境に対する意思決定の影響について検証
この地球を共有するということ (Sharing the planet)	公平性と発展 (Fairness and development)	共通の人間性がもたらすものはなにか？ 生徒は、権利と責任、コミュニティー間の関係、限りある資源を他の人々や他の生物と共有すること、平等な機会へのアクセス、平和と紛争解決について検証。

(IBO資料「MYP:原則から実践へ」2014より)

## 【MYPカリキュラムの特徴（学際的単元・行動しての奉仕・プロジェクト）】

## ○学際的単元（Interdisciplinary learning）

生徒が各教科で身に付けた知識を統合して、探求的な学びを行う機会。  
MYPの必須要件として、各学年で最低1回実施する。

<香美市立香北中学校の例>

1年	理科×数学	物質の状態変化～物質を数理的な観点と科学的な側面から分析しよう～
2年	音楽×美術	アーティストになろう！～風景画と音楽を重ねて～
3年	国語×保健体育	私が私である理由 ～私たちがどのようにして自分の意見を持つのか～

## ○行動としての奉仕（Service as action (SA)）

IBでは、人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界をよくするために行動し、重なり合う幅広い地域やグローバルコミュニティの中で信念のある行動に取り組むための重要な手段として「奉仕活動」重要視している。MYPでは、Service as actionとして「奉仕活動」を行う。

例：地域の清掃活動、学校パンフレットの作成補助など

## ○プロジェクト

MYPの集大成として、コミュニティプロジェクト（CP）orパーソナルプロジェクト（PP）に取り組む。

- ・コミュニティプロジェクト：グループで行う奉仕活動（主に中3で実施）
- ・パーソナルプロジェクト：生徒が自分自身で学びたいことを選択し、取り組む個人探究

#### 授業時数について

MYPIはPYPと異なり基本的に各教科の単元の中で取組むため、授業時数を大幅に増やしたり、組み替えたりする必要はない。ただし、DPにつなげるため外国語を強化して取組むケースがある。

#### 《参考1：標準授業時数とIB校の授業時数の比較（香美市立香北中学校のケース）》

##### ○中学校標準授業時数

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	特活	総合	合計
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015
2年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
3年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015



##### ○香美市立香北中学校授業時数

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	特活	総合	合計
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015
2年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
3年	105	140	140	140	35	35	105	50 (+15)	140	35	35	70	1030 (+15)

ほぼ標準授業時数で  
IBに取り組んでいる

## 《参考2：標準授業時数とIB校の授業時数の比較（高知国際中学校のケース）（英語を強化）》

### ○中学校標準授業時数

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	特活	総合	合計
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015
2年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
3年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015



### ○高知国際中学校授業時数

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	特活	総合	合計
1年	140	105	140	140 (+35)	45	45	105	70	175 (+35)	35	35	85 (+35)	1120 (+105)
2年	140	105	140 (+35)	140	35	35	105	70	175 (+35)	35	35	105 (+35)	1120 (+105)
3年	140 (+35)	140	140	140	35	35	105	70 (+35)	175 (+35)	35	35	70	1120 (+105)

全学年で英語の授業時数を強化

高知国際中学校独自の取組みとして、数学や理科など教科横断的な授業を英語で行う「Learning in English」という授業を、総合学習の時間を増やして実施している

英語の取組み等を強化するため、標準授業時数より各学年105時間(週3時間)時数を多くとっている。

### 3 研究内容報告

#### MYPの評価について

##### <評価の手順>

- ア 各教科で以下の表 観点別評価表のA～Dの4つの観点について8段階の「観点別評価」を行う。
- イ 各観点の4つの評価を合計（ $4 \times 8 = 32$ 点）して、表 の成績換算表を用いて、7段階の「総合評価」を算出する。

【表 観点別評価表】

	A	B	C	D
言語と文学	分析	構成	創作	言語の使用
言語の習得	Listening	Reading	Speaking	Writing
個人と社会	知識と理解	調査探究	コミュニケーション	批判的思考
理科	知識と理解	探究とデザイン	手法と評価	科学的影響の振り返り
数学	知識と理解	パターンの探究	コミュニケーション	実生活への応用
アート	調査	発展	創作・実演	評価
保健体育	知識と理解	活動の計画	応用と実践	活動の振り返りと改善
デザイン	探究と分析	アイデアの発展	課題解決	評価
コミュニティプロジェクト	調査	計画	行動	振り返り
学際的単元	評価	統合	振り返り	

( IBO, 2014, 「MYP : 原則から実践へ」 P93・2020 「Language acquisition 言語」 P39-42・2022 「技術」指導の手引書」 P49-66)

( IBO, 2021, 「MYP における学際的な指導と学習」 P16-17より)

【表 成績換算表】

MYP 観点別評価合計	1-5	6-9	10-14	15-18	19-23	24-27	28-32
総合評価	1	2	3	4	5	6	7

( IBO, 2014, 「MYP : 原則から実践へ」, P109より)

「観点別評価」とは  
生徒の学習状況を各教科ごとに設定した観点別に評価して、その実現状況を分析的に捉えることを目指した評価方法。

香美市立香北中学校では、この学習指導要領に基づくA～Cの観点別評価をMYPの観点別評価(8段階)を使って独自の換算表で5段階の評定を算出している。

##### <評価の報告>

上記評価の手順を踏まえて、学期ごとにMYP評価表と通知表を出す。

##### <留意事項>

- ・評価の客観性を担保するため、異なる教科の教員も含めて評価している。(香美市立香北中学校)  
(同じ教科の教員が複数いることが望ましい。)
- ・基本は内部評価で行うが、パーソナルプロジェクトは外部評価が必要。
- ・IBの評価は20人程度の生徒数があることが望ましい。

その他MYPに係る留意事項（香美市立香北中学校、高知国際中学校の視察から）

○PYP同様、生徒には各探求の単元に入る際に、この単元で「何を学ぶのか」「どのようなスキルを身に付けるのか」「どのように評価されるのか」等を説明し、理解させた上で授業を行っている。

○各単元の時数を決める際は、学習指導要領を漏らさずに落とし込んで決めていく。

○MYPに取り組むことによる高校入試への問題は特にない。探求学習を続けたくて、「探究コース」のある高校へ進学した生徒もいる。

○教員研修やミーティングの時間が多く必要になること、IBプログラムを踏まえたカリキュラムの作成、実施後の評価など、教員の業務負担の増加が懸念される。

### ( 4 ) DP ( Diploma Programme ) について

#### DPの目的・概要

- ・ DPは、16歳から19歳までの大学入学前の生徒を対象とした、綿密に組み立てられた教育プログラム。幅広い分野を学習する2年間のプログラムで、知識豊かで探究心に富み、思いやりと共感する心をもつ人間を育成することを目的としている。また、多様な文化の理解と開かれた心の育成に力を入れており、さまざまな視点を尊重し評価するために必要な態度を育むことを目指している。
- ・ 国際的に通用する大学入学資格 ( IB資格 ) が取得できる。
- ・ 使用言語は、英語、フランス語、スペイン語のいずれか。  
ただし、日本においては、DL ( デュアル・ランゲージ ( いわゆる日本語DP ) ) が認められている。

#### 【日本語DP対象科目等】

- 「言語と文学」(グループ1)のうち、「言語A：文学」「言語A：言語と文学」
- 「個人と社会」(グループ3)のうち、「地理」「歴史」「経済」
- 「理科」(グループ4)のうち、「生物」「化学」「物理」
- 「数学」(グループ5)のうち、「数学：解析とアプローチ」「数学：応用と解釈」
- 「芸術」(グループ6)のうち、「音楽」「美術」

日本語DPでも、6科目中2科目 ( 通常、グループ2 ( 外国語 ) に加えて更に1科目 ) は、英語等で履修することが必要。  
「コア」(3必修要件)の全て：「課題論文」(EE)、「知の理論」(TOK)及び「創造性・活動・奉仕」(CAS)

#### DPのカリキュラムの概要

生徒は以下6つのグループから1教科ずつ選択し、6科目を2年間で学習。6科目のうち、3～4科目を上級レベル<各240時間>、その他を標準レベル<各150時間>学習する。さらに、カリキュラムの中核となる核(「コア」)として、以下の3つの必修要件を並行して履修します。

グループ1	
言語と文学 (母国語)	3種 (5科目)
科目名： 言語A：文学 言語A：言語と文学 言語A：文学と演劇 (SLのみ) (※)	
グループ3	
個人と社会	12種 (23科目)
科目名： 地理、歴史、経済、ビジネスと経営、情報テクノロジーとグローバル社会、哲学、デジタル社会、心理学、社会・文化人類学、グローバル政治、世界の宗教 (SLのみ)、環境システムと社会 (※)	
グループ5	
数学	2種 (4科目)
科目名： 数学：解析とアプローチ 数学：応用と解釈	

グループ2	
言語習得 (外国語)	3種 (5科目)
科目名： 言語B 古典言語 初級言語 (SLのみ)	
グループ4	
理科	9種 (18科目)
科目名： 生物、化学、物理、コンピュータ科学、デザインテクノロジー、スポーツ・エクササイズ・健康科学、環境システムと社会 (※)	
グループ6	
芸術	6種 (11科目)
科目名： 音楽、美術、ダンス、フィルム、演劇、文学と演劇 (SLのみ)	

(文部科学省IB教育推進コンソーシアムHPより)

### <コア科目>

#### 課題論文

(EE : Extended Essay)

生徒が関心のある研究分野について個人研究に取り組み、研究成果を4,000語（日本語の場合は8,000字）の論文にまとめる。

#### 知の理論

(TOK : Theory of Knowledge)

「知識」の本質とはなにかを学ぶ教科。IBが標榜する構成主義では「知識はいつも人が構成するものである」とする。先人はこの世界をどのような枠組みで理解してきたのか。二項対立に陥らず実生活に役立ち、物事の本質に切り込む意義ある問いの立て方と、そうした問いにどのように取り組むか等について学ぶ。

創造性・活動・奉仕 (CAS :  
Creativity/Activity/Service)

創造的思考を伴う芸術などの活動、身体的活動、無報酬での自発的な交流活動といった体験的な学習に取り組む。

(文部科学省IB教育推進コンソーシアムHPより)

#### DPの評価（IB資格取得）について

- ・ IB資格の取得には、DPカリキュラムを全て履修し、外部評価（国際バカロレア試験等）及び内部評価を通じて、45点満点中、原則として24点以上を取得する必要がある。
- ・ 配点は、6科目につき各7点（計42点）。さらに、必修要件（「コア」）について、T O KとE Eの評価結果の組み合わせに応じて最大3点が与えられます（C A Sは評価対象外）。
- ・ 国際バカロレア試験は、北半球・南半球ごとに世界で一斉で実施される。日本の一条校の場合は、原則として3年次の11月に実施され、翌年の1月5日に最終スコアが通知される。

#### 【DP資格試験問題例（科目グループ1「言語と文化」）】

どちらかの問いを選んで答えよ

集団は言語の固有の使用方法を用いてどのようにそのアイデンティティを表現するか、言語と文化に関して自分で学んだことに基づいて答えよ。

時を経て言語が変わる方法にはどのようなものがあるか？あなたは、そのような変化は良いことと考えるか、悪いことと考えるか述べよ。

## その他DPに係る説明事項（高知国際高校の視察から）

○取組による学習効果は非常に高い。

主体的に学ぶ力や探求し発表する力のほか、進路選択の際も自らやりたいことを見つけて進んでいく力が身に付く。

○多様化する大学入試に対応できる。

IB資格取得者は海外大学を含む様々な大学で行うIB入試に出願できる。

論文を作ることや議論すること、発表する力が付くため、大学入試の総合型選抜にも対応しやすい。

○DPの学習は大変。

- ・授業のための事前課題が相当多い。学習カウンセラーがいると良い。
- ・DPはついていけなくなる生徒が出てくる。（DPコースから変更する場合がある。）
- ・部活との両立は困難。

○教員研修やミーティングの時間が多く必要になること、IBプログラムを踏まえたカリキュラムの作成、実施後の評価など、教員の業務負担の増加が懸念される。

○導入に当たっては既導入校に教員を一定期間派遣して研修させるなどの対応が必要。

○DPの導入は、IB資格取得を考えた場合、MYPから取組むと効果が高い。

○日本語DPでもIB資格の取得には特段影響はない。

#### ( 5 ) IB教育と外国語教育について

IB教育は、PYP、MYPは使用言語の指定がないため、通常通り日本の教育で実施可能だが、DPへの進学を考慮した場合、DPIは日本語DPであっても外国語科目 + 1科目は外国語で授業を行う必要があるため、外国語教育の取組みの強化が必要となる。

#### 【先進校視察から見える必要な英語力】

○日本語DP：高1で英検2級以上の英語力が必要（高知国際高校の視察から）

○外国語のみのDP：高校進学段階でTOEFL Junior のスコア780点以上（英検2級～準1級以上）  
（ぐんま国際アカデミー視察から）

高知国際中学校・高等学校では、中学校段階での外国語授業時数を週1時間（年35時間）増やすとともに、中1～中2の2年間、週1回総合学習の時間を使い「Learning in English」という数学や理科など教科横断的な授業を英語で実施している。

ぐんま国際アカデミーでは、小学校から「英語イマージョン教育」により、国語など特定の科目を除き、英語で授業を行っている。

これらの状況から、DPに取り組むに当たっては、遅くとも中学校段階から外国語教育を強化した取組が必要になると考えられる。

「英語イマージョン教育」とはイマージョン（immersion）とは、「浸すこと」。英語イマージョン教育とは、英語を身に付ける学習方法の一つで、各教科の授業を母語（日本語）ではなく、英語で行い、英語の環境に「浸す」ことによって自然とその英語を身に付けさせる方法。

#### (6) まとめ (IB教育導入の効果 (メリット) と課題について)

##### 【効果 (メリット)】

- IB教育は児童生徒が主体的に学ぶ力、考える力、コミュニケーション力、表現する力など、グローバル化に対応した素養・能力を育むプログラムとして、高い効果が期待できる。
- それにより、生徒が自ら将来進むべき道を見つけ、実現していく力も身に付けることができる。
- IB教育は指導・学習・評価が一体的になっており、探究単元の際には必ず「何を学ぶのか」「どのようなスキルを身に付けるのか」「どのように評価されるのか」等の説明を受けていることから、最終的なゴールが可視化されていて、高い学習効果が期待できる。
- カリキュラムをゼロから組み立てるのではなく、IBOが示す指導・学習・評価の指針や先進事例を参考にカリキュラムを編成することができるため取組みやすい。
- IB教育に取り組むことで、教員の指導力向上にもつながる。

##### 【課題】

IB教育に係る研修、ミーティング、カリキュラム作成、評価等教員の業務負担の増加が懸念されるため、業務負担軽減の取組が必要。

IB教育の理念を理解し取組むことができる校長、IBコーディネーター等を確保しなければならない。

教員の配置などで、県のサポートが必要となる。

公立校での事例が少ない中、保護者や地域の理解が必要。(コミュニティ・スクールの導入も視野に入れる必要がある。)

DPに取り組む場合は、県の協力及び外国語教育を強化する取組について検討する必要がある。

## 4 IB教育導入の可能性について

- IB教育は本市児童生徒が、グローバル化が進展する社会の中で未来社会を切り開くために必要な資質・能力の育成に高い効果が期待できること、公立学校での導入も可能と判断できることから、市内導入に向けて取り組むこととする。
- 市内導入に向けて取り組むため、導入の目的や期待される効果、要件など導入に係る指針を定めることとする。
- 市内導入に当たっては、想定される課題に対応しながら、まず、小学校においてPYPの導入に向けて取り組むこととする。
- 市内幼稚園・保育園での導入は、小学校への接続を踏まえた対応を考慮する必要があることから、引き続き導入可能性について研究を進めることとする。
- MYP、DPについては、中高一貫教育により導入するケース、小中一貫教育によりPYPからMYPに接続するケース、それぞれ単独で導入するケースがある。さらにカリキュラム等の教育活動についても外国語教育を強化して取り組むケースがあるなど様々なパターンがあることから、効果的な導入の在り方について県との協議を含め、引き続き研究を進めることとする。

- ( 1 ) IBの市内導入に向けた指針の策定
- ( 2 ) PYP導入に向けた取組 ( 小学校 )
  - ・ 導入校の研究
  - ・ PYPカリキュラムの作成
  - ・ IB0主催ワークショップや各種研修会への参加
  - ・ 課題解決に向けた取組の検討・実施
  - ・ 先進事例調査の継続
  - ・ 候補校申請に向けた要件等確認、準備
  - ・ 福島県、福島県教育委員会との導入サポートに向けた協議
- ( 3 ) PYP導入可能性の研究 ( 幼稚園・保育園 )
  - ・ カリキュラムの研究
  - ・ 先進事例調査の継続
  - ・ IB0主催ワークショップや研修会への参加
  - ・ 小学校との接続に向けた研究
- ( 4 ) MYP、DP導入可能性の研究
  - ・ カリキュラムの研究
  - ・ 先進事例調査
  - ・ IB0主催ワークショップや研修会への参加
  - ・ 福島県、福島県教育委員会との協議

《参考：IB認定校（国公立）一覧（令和6年3月31日現在）》

都道府県	学校名	PYP	MYP	DP
北海道	市立札幌開成中等教育学校			
宮城県	仙台二華高等学校			
埼玉県	さいたま市立大宮国際中等教育学校		○	
	筑波大学附属坂戸高等学校			
東京都	東京学芸大学附属大泉小学校	○		
	東京学芸大学附属国際中等教育学校		○	
	東京都立国際高等学校			○
神奈川県	神奈川県立横浜国際高等学校			
山梨県	山梨県立甲府西高等学校			
滋賀県	滋賀県立虎姫高等学校			
大阪府	大阪教育大学附属池田中学校		○	
	大阪府立水都国際高等学校			
鳥取県	鳥取県立倉吉東高等学校			
広島県	広島県立広島叡智学園中学校・高等学校		○	
高知県	香美市立大宮小学校			
	香美市立香北中学校			
	高知県立高知国際中学校・高等学校			

・・・日本語DP実施校

（文部科学省IB教育推進コンソーシアムHPより）

# 《参考：IBを活用した入試が可能な大学（令和5年1月現在）》

NO.	都道府県	大学名	国公私	NO.	都道府県	大学名	国公私	NO.	都道府県	大学名	国公私
1	北海道	北海道大学	国立	27	東京都	東京外国語大学	国立	53	京都府	京都工芸繊維大学	国立
2	宮城県	東北大学	国立	28		東京学芸大学	国立	54		京都大学	国立
3		東北福祉大学	私立	29		東京藝術大学	国立	55		同志社大学	私立
4	秋田県	秋田大学	国立	30		東京大学	国立	56	立命館大学	私立	
5		国際教養大学	公立	31		東京都市大学	私立	57	大阪公立大学	公立	
6	福島県	会津大学	公立	32		東京都立大学	公立	58	大阪大学	国立	
7	茨城県	筑波大学	国立	33		東京理科大学	私立	59	関西医科大学	私立	
8	栃木県	国際医療福祉大学	私立	34		東洋大学	私立	60	関西大学	私立	
9	群馬県	群馬大学	国立	35		日本獣医生命科学大学	私立	61	近畿大学	私立	
10	東京都	東京国際大学	私立	36		日本体育大学	私立	62	関西学院大学	私立	
11		日本工業大学	私立	37		ビジネス・ブレークスルー大学	私立	63	神戸女学院大学	私立	
12		武蔵野学院大学	私立	38		法政大学	私立	64	兵庫県立大学	公立	
13		明海大学	私立	39		武蔵野大学	私立	65	岡山大学	国立	
14		青山学院大学	私立	40		武蔵野美術大学	私立	66	岡山理科大学	私立	
15		お茶の水女子大学	国立	41		明治学院大学	私立	67	倉敷芸術科学大学	私立	
16		慶應義塾大学	私立	42		明治大学	私立	68	叡啓大学	公立	
17		国際基督教大学	私立	43		立教大学	私立	69	広島修道大学	私立	
18		東京都	工学院大学	私立		44	早稲田大学	私立	70	広島大学	国立
19			芝浦工業大学	私立		45	神奈川県	横浜市立大学	公立	71	香川県
		順天堂大学 (医学部・国際教養学部)	私立	46	石川県	金沢大学	国立	72	福岡県	九州工業大学	国立
21		上智大学	私立	47	山梨県	都留文科大学	公立	73		九州大学	国立
22		創価大学	私立	48	長野県	松本歯科大学	私立	74		西南学院大学	私立
23		玉川大学	私立	49	愛知県	愛知医科大学	私立	75	長崎県	長崎大学	国立
24		多摩美術大学	私立	50		中京大学	私立	76	大分県	立命館アジア太平洋大学	私立
25		中央大学	私立	51		名古屋大学	国立	77	鹿児島県	鹿児島大学	国立
26		東京医科歯科大学	国立	52	京都府	京都外国語大学	私立	78	沖縄県	琉球大学	国立

(文部科学省IB教育推進コンソーシアムHPより)